1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2014年５月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

SSKU
一部 100円

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター
Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

どっこい生きてます!

新たに挑戦する「鹿島灘太鼓」

潮騒JTCではエイサー（琉球太鼓）に加え、新たに「鹿島灘太鼓」を
プログラムに取り入れ、12 月の潮騒フォーラムでは
エイサーと和太鼓の競演を実現しようと有志が日々練習に励んでいます
（7ページに記事）

2014
5

居場所がないなら、自力でつくるしかない

「新しい酒は新しい革袋に盛れ！」―新約聖書に出てくる箴言です。「新しい葡萄酒は古い革袋に入れてはならない。なぜなら革袋が破れて酒が漏れ、革袋もだめになるから」と。その昔、葡萄酒の貯蔵には山羊の革袋が使われていました。もし古くなって弾力を失った革袋に、まだ発酵し続けている新しい葡萄酒を入れたなら活発な炭酸ガスが袋の中に充満し、やがては革袋が破れてしまい、大事な葡萄酒も革袋もだめになってしまいます。聖書が説く「新しい酒」はユダヤ教に代わるキリスト教のことですが、新しい思想や状況を受け入れるには古い殻に囚われない柔軟な頭と物事を謙虚に受け入れる態度が必要です。その準備が整っていないと古いものが崩壊するだけでなく、新しいものを受け入れる基盤そのものも失いかねない、という意味です。

最近、この教えを噛み締める場面が増えています。今の私の心の在りようを投影しているからです。私はダルクの在り方に忠実な施設運営をしてきました。しかし、ここにきてダルクの枠に収まらない知的、身体的、そして精神的な複合障害を抱えた「行き場のない人たち」の登場に日々振り回されています。もはや旧来のダルクプログラムと当事者活動だけではやっていけない事態に差し掛かりました。これを突破するには公的な財政支援はもちろん、幅広い専門分野の協力が不可欠です。でも、そうすると回復実績が問われ、入寮者を線引きしない「来る者拒まず」の原則が危うくなり、依存症者にとって“救い”となる「ちょうどいい加減」の運営が貫けなくなります。

こうしたジレンマを抱えながらも私は「潮騒以外に行き場がない」「何とか助けてほしい」という切実な声を無視できません。今、潮騒の門を叩く人たちは十数年前の私の姿とダブるからです。そのため困難は承知の上で受け入れていますが、その分スタッフに負担がかかり、今度はスタッフの回復が難しくなります。超多忙なスタッフには「これもハイヤーパワーの計画だよ」と諭すものの、本音を言えばダルクのスタイルにこだわった運営には限界を意識し始めています。このジレンマに何とか風穴を開けたいとの思いから先日、北海道の「べてるの家」を農業隊メンバーと一緒に視察研修してきました。短時間ながら既存の精神医療の限界を超える“べてるパワー”の一端をのぞき見て、私も潮騒JTCならアディクション（依存症）概念の拡張は可能ではないか、との思いを強くしました。居場所がないなら、自力でつくるしかない。ダルクもそうしたシンプルな発想が初発の契機だったはずです。そのダルクも来年で30周年、そろそろ手垢が目立ち始めました。ダルクの枠を超える施設をつくろう！―古希を過ぎた私ですが、ダルクを超える次なるビジョンを求めて残りの人生を賭けようと密かな決意（妄想？）を抱いています。

（センター長 栗原 豊）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

「日本のさくら名所100選」静峰公園で八重桜を楽しむ

4月下旬、入寮者の皆さんが茨城県那珂市の静峰ふるさと公園に車で遠出して、ほぼ満開となった八重桜を鑑賞してきました。同公園は「日本のさくら名所 100選」に選ばれています。日本人好みの染井吉野とは異なる美しさと趣があり、知る人ぞ知る桜の名所です。

潮騒JTCでは四季折々の風情や自然の恩恵に触れようと、毎年春の花見イベントを日帰りの小旅行として実施しています。今年はどうしようかとスタッフ間で話し合った結果、日にちをずらして2班に分かれて静峰公園に白羽の矢を立てました。鹿嶋から車で約1時間半の距離です。入寮者たちはやや疲れ気味ながらも一面ピンク色に染まった八重桜の下で、お弁当を食べたり昼寝をしたりして、のんびりとくつろぎました。

公園内の一角を確保してブルーシートを敷いて車座になりながら、今年も「桜を見ながらの俳句作り」に挑戦。小グループに分かれて俳句作りに励みました。それぞれが1句をひねり、一番いい俳句作品を選びました。「幼子の頬を染めたる桜色」―今回の花見イベントでの俳句作りで最優秀作品に選ばれた作品です。この句の作者のスダさんは、「昔女房と娘を連れて行った時のことを思い出して書きました。お酒のない花見は初めての経験で、戸惑うことが多かったですが、この句が選ばれたことが嬉しく感じています。いつの時になるか分かりませんが、この句を詠んだ風景で再会できればいいなと考えています」とコメントしてくれました。（か）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

リレーや綱引きで子供にタイムスリップ

初夏キャンプ&太運動会

今年で４年目の開催となった潮騒JTC恒例の初夏キャンプが５月20･21日の２日間、土浦市永井の茨城県立中央青年の家でありました。今年は施設初の大運動会に取り組み、充実したプログラムで盛り上がりました。仲間たちは自然あふれる里山空間で、施設の日常とは異なる集団生活を体験し、子供時代にタイムスリップしたかのように球技やリレー競技などの企画を楽しみました。

一日目はオリエンテーションのあと紅白に分かれて運動会の各種プログラムを楽しみました。室内でのドッヂボールのほか、玉入れや綱引き、リレーなどで熱戦を展開。ふだんの施設生活では目にできない見事なチームワークを見せつけました。夕食は野外炊飯でカレーや豚汁作りに精を出し、室内と異なり食が進みました。夜のキャンプファイヤーは圧巻で、暗がりの中で久し振りに潮騒エイサー隊が琉球太鼓で雰囲気を盛り上げ、 幻想的な焚火を囲んで心を一つにできました。

今回も2日目はあいにくの雨にたたられましたが、集会室で施設の仲間たちの形態模写などで盛り上がり、栗原センター長からは示唆に富む講話もありました。締め括りに反省会もあり、仲間たちからは「とても楽しかった。ぜひ来年もキャンプの中で運動会をやってほしい」との声が相次ぎました。

成功に終わった潮騒大運動会を振り返って

潮騒のスタッフ、薬物･アルコール依存症のマコトでーす！ この度、潮騒JTCが初夏キャンプ･プログラムの中で、初めて取り組んだ大運動会の実行委員長を務めさせていただきました。みんなの協力とスタッフの頑張りで、無事終える事が出来てホっとしています。ありがとうございました。

今年は何カ月も前からスタッフ会議で色々考えて準備してきました。この間、入寮者の急な入院や自主退寮、逆に新たな入寮が相次ぎ、種目ごとのメンバー割りやプログラム編成などで苦労が多くあり、なかなか大変ではありましたが…。

それでも、当日は仲間たちの協力があり、参加者全員が紅白に分かれて正々堂々スポーツマンシップに乗っ取り(笑)、楽しく２日間を過ごすことが出来ました。いろいろと反省点もありますが、仲間たちからは「よかったよ!」とのお褒めの言葉がもらえ、頑張った甲斐がありました。おかげで翌日は全身筋肉痛となりましたが、やりとげた達成感で心地よい気分を味わいました。前述のように２日目が雨だったのが残念だったですが、潮騒の恒例行事になるよう、来年も内容の濃いものにしていきたいと思います。

あっ!! 追伸になりますが、運動会の最後に行ったリレーで起きた珍事件？を記しておきます。どうやら選手の皆さん、気持ちと体が噛み合わなかったようで、リレーでは転倒者が続出する事態となりました（笑)。「なにくそ～、若い者に負けてはなるものか!」という勝負への執念が感じられ、アディクトの皆さん、やはり気持ちは皆んな若いんだなっ、と改めて感心しながら観戦させてもらいました。こうしたパワーゲームなら大歓迎で～す。頑張れ、潮騒の中高年アディクトたち!!

（マコト）

交流会 with 横浜ダルク

今年もGW交流会で横浜ダルクと親睦深める

今年もゴールデンウイーク期間中、恒例の横浜ダルクとの交流会が開かれました。横浜ダルクは日頃から何かとお世話になっている先輩ダルクの一つです。こうした経験交流は潮騒 JTC にとっては財産となるので、今後も大事にしたいと思います。今年は下津海岸での BBQ が雨にたたられてしまい、課題を残しました。事後の反省会では事前の準備を早めに行い、双方の代表メンバーによる話し合いも何度か実施していくべきとの意見が出されました。それと大所帯となった潮騒の現状を踏まえ、交流会のプログラム内容を検討する時期ではないか、という問題提起がスタッフからありました。（い）

● 横浜ダルク職員：栗栖次郎

今年も潮騒 JTC＆横浜ダルクの合同プログラムは最高でした。この感想文を書く機会を与えて頂いて有難うございます。合同プログラムを振り返ることで、「二度美味しい！」を味わっています。以下は感想です。

皆で入るお風呂～「いやぁ～寛（くつろ）いだ！」。面白い野次で大いに盛り上がったソフトボール～「毎年勝てんな～」。お腹一杯になった台湾料理～「厚かましく食べました！ご馳走様です!!」。「おっかさ～ん」で始まった大カラオケ大会、そして雨の中のバーベキュー～「いや～美味しかった!!満足満足!!」。毎年毎年、潮騒の皆さんにもてなして頂き感無量です。

今年も潮騒の皆さんに大切な事を学ばせてもらいました。ソフトボールでは怪我もありました。仲間同士の喧嘩もありました。でも、皆でざこ寝して、一緒に風呂に入れば、It's all right!! 皆が共に回復を目指す仲間です!!「全国に一人でも多くの仲間を作ることが我々の回復を確かなものにする」。私がスポンサーに教わった事です。今年も新しい仲間と知り合い仲良くなりました！潮騒JTCの仲間達、有難うございます!!

（栗栖：クリーン7年2カ月　若干47歳）

● 潮騒JTC：エゾ

ゴールデンウイーク後半の5月2～5日まで、恒例となった横浜ダルクの仲間たちと潮騒入寮者たちとの交流プログラムがありました。横浜ダルクメンバーは2日夕に来所しましたが、この時私はほかに仕事があったので皆さんに会うことが出来ませんでした。そのため、翌3日のソフトボールの親善試合で初めて一行の皆さんに会うことが出来ました。私のスポンサーも一緒来てくれたので会うことができ、よかったです。

試合の方は潮騒が勝ちました。野次があり笑いがありで楽しかったです。その後一緒にお風呂に入ったり食事をしたりと交流を楽しみ、その日は終わりました。4日は夕方にカラオケとビンゴ大会をやりました。とてもにぎやかで良かったです。自分もビンゴ大会で景品が当たり、疲れたけれど楽しみました。

最終日は昼ごろから下津海岸でバーベキューをやって交流会は終わりました。その日は朝から天候が悪くて雨が降ったりやんだりと最悪でしたが、全体的には自分にとってとても良い交流会だったと思います。スポンサーともフェローシップもとれたし、これからの回復の道に光がさして気持ちも楽になった交流会でした。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

鹿島灘太鼓

新たに挑戦する「鹿島灘太鼓」の練習が本格化
創設者の指導で基本技術の習得に汗を流す

潮騒 JTC が新たに施設のプログラム（余暇活動）に取り入れた、地元の和太鼓「鹿島灘太鼓」の練習が本格化しています。太鼓演奏に興味を持つ潮騒の仲間有志が参加して、神栖市の公共施設で定期的に開かれる合同練習では鹿島灘太鼓の創始者から直接手ほどきを受けて汗を流しているほか、ふだんの日も自主的に施設内で基礎練習に励んでいます。目標は 12 月の潮騒 9 周年フォーラムで、先に始めたエイサー（琉球太鼓）とのコラボレーションです。

鹿島灘太鼓は、和太鼓を通じての伝統芸能の伝承と青少年の健全育成を目的に、神栖市の島田正之さんと妻の京子さんが平成 4 年に創設したボランティアの和太鼓集団です。地道に練習を重ね、今では全国トップクラスの実力を誇ります。各地の和太鼓大会やイベント、祭り、老人福祉施設への慰問など幅広い演奏活動を行っています。代表の島田さんは古典的な囃子太鼓を基本にしながらも、若い人たちに人気の創作太鼓にも挑戦。鹿島灘をイメージした勇壮なオリジナル作品も手掛け、メンバー確保に悩みながらも女性を含む若い会員たちを引っ張っています。

また、代表の島田さん夫妻は茨城県立鹿島灘高校（鉾田市）の外部講師として同校の和太鼓演奏指導も担当し、島田さんらの熱心な指導で同校和太鼓部はめきめき腕を上げて全国大会で上位入賞するなど、生徒たちの自信と誇りを生み、学校の活性化と知名度アップにも大いに貢献しています。

それだけに島田さん夫妻はふだんの練習では基礎的な技術の反復練習をおろそかにせず、「一日一日楽しく、辛抱しながらの地道な練習」をモットーにしています。この考えはダルクや潮騒 JTC の「今日一日だけは飲まない、使わない」の基本精神につながるものです。その上で島田さん夫妻は「どうせやるなら夢を持って日本一を目指そう」と若い会員たちを励ましています。

先の神栖市内での定期練習には男性入寮者に加え、潮騒女性メンバーも参加し、午前 10 時から昼食をはさんで夜までみっちり続き、基礎練習に汗を流しました。本家の鹿島灘太鼓隊のメンバーには足手まといのような潮騒の参加者たちですが、島田さん夫妻や若いメンバーは懇切丁寧に辛抱強く指導を惜しみません。毎回のご指導ありがとうございます。

仲間と一緒に和太鼓の練習に励む充実感

私は日本の文化や伝統が好きで、以前から和太鼓に興味がありました。この施設に来て、和太鼓を回復プログラムの一環としてやっていると聞いたとき、心が躍りぜひやってみたいと思いました。今回、初めて太鼓の練習に参加させて頂いた時、ばちを持って太鼓を打つのが予想以上に難しくて驚きました。私にできるだろうか…と不安になりましたが、先生方の優しく丁寧なご指導のおかげと、やはり私と同じように太鼓が好きで興味を持ち、必死に頑張っている仲間たちの姿が刺激となり、回数が増えるにつれ練習に参加するのがどんどん楽しみになっています。とてもきついけれど、思い切り体を動かし掛け声を出してみんなと気持ちが一つになり、一緒に太鼓を叩いていると弱った私の心が元気になります。これからもっと上達できるように頑張って練習に付いていこうと決意を新たにしています。

（あやめ）

NPO法人潮騒JTCの平成26年度総会開く

～提出議案を全会一致で異議なく承認

特定非営利活動法人・潮騒ジョブトレーニングセンターの平成26年度総会が5月24日、鹿嶋市宮中の潮騒デイケア会議室で開かれ、前年度の事業報告や同決算、今年度の事業や予算計画がいずれも異議なく了承されました。出席した理事からは、今年3年目で助成が終了する「潮騒ファイザープロジェクト」を、今後も何らかの形で発展させてほしいとのご助言を頂きました。

冒頭あいさつした栗原豊理事長は、潮騒JTCが直面している課題に言及。「入寮条件のハードルを低くして、潮騒に救いを求める“行き場のない人たち”をできるだけ受け入れているが、回復プログラムに取り組めない困難者が増えている。刑務所からつながる人たちも施設内でのトラブルを起こすケースが目立ち、増加する高齢依存症者とともに対応に頭を痛めている」とし、ダルクの原則に忠実な運営が、逆に矛盾を膨らませている現状を述べました。このため、きめ細かな施設環境の整備やスタッフの増員、ニーズに沿った個別支援に力を入れることを表明しました。

議事では事業報告や計画の中で、潮騒が独自に取り組む太鼓（エイサー、鹿島灘太鼓）プログラム、俳句作りなどが施設を活性化させ、回復への動機付けや後押しにつながっていることが説明され、施設が意欲的に進める農業を核とした就労支援プロジェクトが一つの形になっていることが明らかにされました。また施設が圧倒的に少ない、女性施設への本格的な取り組みなども示されました。ただ、3･11 東日本大地震による被害で本部施設の建物補修などが「待ったなし」の状況で、これに対する工事費の捻出に苦労していることから、予算編成では苦肉の策として栗原理事長らの給与を半減してやり繰りする、綱渡り運営が続いていることも報告されました。（市）

話題のRD学習会がスタート

～12ステップを我がものとするために

潮騒JTCは、回復の指標となる12ステップ・プログラムを日々の生活に生かす道具として学び直し、新しい生き方を共に実践しようと専門講師を招いてリカバリー・ダイナミクス（略称RD）についての自主学習会を5月から始めました。栗原センター長ら施設運営にかかわるスタッフが参加し、週に1度のペースで熱心に勉強しています。講師は秋元病院職員でRD認定講師の藤田良さんです。

RDは12ステップを依存症回復支援施設などで効果的に実践するために作られたプログラム。アルコール依存症者の相互援助グループの基本テキスト『アルコホーリクス・アノニマス』（通称ビッグブック）をベースにしています。プロバイダー研修を受けたスタッフが図表を多用し、具体的な体験を交えて分かり易く講習しています。

潮騒では依存症者の就労支援に力を入れていますが、回復のステージに至る前に12ステップの理解が進まず、簡単にスリップしてしまう入寮者を抱えていることから、「まず隗より始めよ」の教えに従い、各部門の責任スタッフが率先して勉強していくことにしたものです。

施設内で日常的に問われる「どうやって無力を理解するのか」「ハイヤーパワーをどう説明すべきか」「棚卸や埋め合わせをどのように助言すべきか」「霊的に生きるとは？」—など素朴で根源的な疑問に等身大での理解が深まり、それぞれの体験を踏まえた適切なアドバイスが可能になるといいます。

藤田さんは潮騒での弱点とされるスポンサーシップの充実を促しながら、「受講されているスタッフの皆さんには12ステップを深め、使いこなすワークとしてだけでなく、できればステップアップした講習を受けて認定プロバイダーの資格を取ってほしい」と期待を寄せています。RD学習会は8月末頃まで14回程度開く予定です。（か）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

青パパイヤの定植作業が終わり順調に生育

～リーダー不在でも意欲的に田植え作業

今年チャレンジ2年目となる未完熟の青パパイヤ栽培で、苗の定植作業が5月上旬に無事終わりました。昨年の失敗経験を生かし、パパイヤ栽培には適さない青塚農場から鉾田市に近い地蔵院農場に生産拠点を移し、今年の1月から土壌作りに力を入れてきました。昨年にも増して、しつこいくらいに“師匠”である那珂市の柳沼正一さん（やぎぬま農園代表）に指導を仰ぎ、作業手順や方法などを細かく確認するなどして勉強しています。

柳沼さんは苦労して茨城県で青パパイヤの露地栽培技術を確立した人です。パパイヤ栽培は熱帯・亜熱帯地域が中心で、日本では沖縄県などごく一部、関東圏では珍しいとされます。縁あって移り住んだ同市でハウスではなく、困難な路地栽培に挑み、苦労の末4年前に茨城県を栽培北限とすることに成功しました。その栽培技術やノウハウを公開しながら、「那珂パパイヤ」ブランドの普及を図っています。

今あちこちで注目されている柳沼さんですが、依存症リハビリ施設の潮騒JTCが取り組んでいることに関心を示し、「熟す前の青パパイアは野菜としてどんな料理にもよく合う。健康機能性も高い」として鹿嶋地域での普及に期待を寄せています。今年は冷夏との予想もあり天候の推移が気になりますが、無力を認め、失敗から学ぶがアディクトの原点であり、農業の取り組みにも通じます。

幸運にも継続してファイザー社の助成を受けているプロジェクトだけに、農業自然隊メンバーに「2年目の今年は失敗は許されない」との無言のプレッシャーは否めません。そのため仲間たちとの打ち合わせも頻繁に行いました。時には自然隊に参加しているメンバー同士が口角泡を飛ばし、言い合いになる場面もあります。それほどみんな真剣に取り組んでいるのです。

今年は試験的にビニールハウスに10本、農場の畑には90本の合計100本の苗を植え付けました。昨年と同じように寒さから防ぐためにポットを被せてありますが、あまり過保護過ぎる環境だと逆効果となるので、その辺りは気温との見極めが大事です。「水をやりすぎた木は枯れる」の諺ではありませんが、青パパイヤ栽培も依存症の回復と同じように“丁度いい加減”の環境作りへの配慮が求められます。

今のところは毎朝、毎晩施設からは少し距離のある農場に出向いては青パパイヤの苗の生育状況を見守っています。この確認作業だけでも大変ですが、何とか順調に育ってほしいと、我が子を慈しむような感覚で育てています。敢えて困難に挑む意欲的かつ戦略的なチャレンジの青パパイヤ栽培ですが、仲間たちとやれることに感謝しています。

◇

今年の田植えは、稲作リーダーのヒコさんの入院という予期しなかったアクシデントの試練の下で5月中旬に行われました。ベテラン指導者の不在という逆境を跳ね返し、メンバーたちが「いつまでもヒコさん頼りでは、自分たちが自立できない」との決意を新たにして取り組みました。

とはいえ、この件については仲間たちで何度も話し合いを続け、「ダルクや潮騒の真骨頂は“なんとかなる”の精神にある」「自助努力していれば最後はハイヤーパワーが見捨てない」「植えた苗が多少曲がっていても稲はなんとか育つ」などと話し、潮騒の持ち味である「いい加減」を肯定する仲間たちメンバーの態度に救われました。

道路設置の計画が現実となり、そのために使えないと思っていた田んぼが急きょ使えるようになったりと、毎回こちらの予想をくつがえす事態に一喜一憂しながらも、メンバーみんなが「いい経験とさせてもらっている」と受け止め、改めて潮騒農業で成長している仲間たちの姿と、潮騒の持つマンパワーの凄さを実感させられました。

作付面積も増え、作業隊メンバーも増え、頼れる仲間たちに助けられ、自分がより責任ある立場であることを意識しています。農業を始めてまだ3年目のひよっこですが、3度目の田植を通じて素人農業ながらも潮騒が目指す昔気質の“百姓”の一人としても成長を実感しています。

（ヒトシ）

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

受刑者からの手紙

「しおさい俳壇」とともに潮騒通信を特徴づけるのが、この「受刑者の手紙」です。外部とのコミュニケーションに渇望している皆さんの生の声はとても貴重です。手紙は全て目を通していますが、ほんの一部しか掲載できないのが悩みです。受刑者の皆さん、めげずに頑張ってください。（ユタカ）

保護会では依存症の自分の更生は難しい

キクさん、お手紙ありがとうございます。自分のような者のために温かい励ましの言葉をいただき、感謝しています。手紙に書いてありましたが、自分も出所後の生活は大変だろうと覚悟はしています。それで自分の今後の生活についてですが、どう考えても潮騒JTC以外には考えられません。厳しいことや辛いことはたくさんあるとは思いますが、同じ境遇の仲間たちの中でなら自分も回復できるのでは、と希望を抱きます。やはり今の自分には仲間の手助けが必要です。ですから今は、潮騒での生活を夢見て何事にも前向きな考えで過ごしています。毎日のミーティングやプログラムの取り組みが、どうしても自分には必要なのです。一般的には保護会の方が楽なのかもしれませんが、保護会では依存症の自分の更生は難しいと思います。

（神奈川県　K・M）

今回3回目の受刑生活で親からも縁が切られた

前略。以前に拘置所にいた時にご連絡頂きまいたが、返事が遅くなり申し訳ありません。私は住所地には戻ることはできません。年齢は57歳になります。満期は平成27年の8月です。罪名は覚醒剤取締法違反で3度目です。若い時から使ってはやめ、やめては使うの繰り返しで、結局はやめられません。平成14年に初めて捕まり2年6カ月の実刑となり、21年に2回目で1年6カ月、そして今回3回目となる2年の受刑生活で、親からも縁が切られた状態です。母も高齢で81歳になり、できれば生きている間にもう一度、立ち直った自分を見せてやりたいと思いが今更ながら強くなり、薬物に頼ると云うか、薬を使用しないで済むようになりたいと思っています。とはいえ何度も今までやめようとしてきましたが、何かあったりすると薬に逃げてしまいました。今回も1年半、1日14時間もラーメン屋で働いてきて、一時の気の乱れで使用し捕まってしまい、仕事も全て失いました。もうこのような事は繰り返したくないのです。お返事宜しくお願い致します。

（北海道　M・K）

薬物離脱教育に参加してガラッと考えが変わった

前略。初めてお便りを書かせてもらいます。私の刑の満期は来年7月です。昨年10月頃から薬物離脱教育を受け、ダルクの人達3人と受刑者8人ほどが一緒になり、薬物に関するミーティングなどをやりました。私にとっては数多い受刑生活の中でも、初めての経験でした。初めは教育の先生方から参加するように言われたので、それも勉強だと思い参加しましたが、いつの間にか参加者の話を熱心に聞くようになり、私も真剣に発言するようになりました。まさか私がそんなミーティングに参加するようになるとは思ってもみませんでした。刑務所も変わったなあ、とつくづく考えさせられました。

ダルクという施設があるのは知っていましたし、栗原先生のことも他の受刑者から話を聞いていました。その時は、まさか自分がダルクに興味を持ち、そこでの生活を考えることなどあり得ないと思っていましたが、今回薬物離脱教育に参加してガラッと考えが変わりました。私は何度も薬物関係で刑務所生活を送ってきました。本当にバカな人生を送ってきたと後悔しています。残りの人生はきっぱり薬物とは縁を切り、きちんとした社会生活を送りたいと思っている次第です。今年11月には58歳になるので、本当に最後のチャンスだと思っています。どうか栗原先生、顔も知らない面識もない私ですが、身元引受人になってもらい、ダルクでの生活を通して薬とは縁を切り、きちんと社会人として通用する人間となり、自立したいと思っているので、ご多忙とは存じますが一度相談にのってもらえないですか？　毎日、そのことを真剣に考えています。もう、こんな生活はこりごりです。

（青森県　Y・T）

配役されている仕事に集中して取り組む

お陰様で平穏無事に落ち着いた生活を遅らせて頂いています。社会から断絶して約2年の時がたち、受刑生活となってから1年が経過しました。振り返った時間はとても早く感じますが、残された刑期をしっかりと目標を持って生活をしていきます。まずは「無事故」が目標ですが、今後の社会復帰を考えますと「働くことの日常化」が大切だと考え、現在配役されている仕事に集中して取り組んでいるところです。

今まで働くことをおろそかにしては薬に手を染めてきたので、工場での仕事に専念していると雑念を捨てて一生懸命になれるので、私の性格からしても生産工場のような仕事が合っていると実感します。なので、社会復帰後は何かを作る職業に従事したいと思っているので、潮騒JTCに入寮させて頂きましたら、仕事や生活のことはどうしたらいいか教えて頂きたいとお願いします。

（中略）満期日が日一日と近づくにつれ、やはり不安との葛藤が募るばかりです。焦りは禁物だと自分を戒めてはいるのですが、独りになって房舎で過ごす休日などはいろいろと考えてしまいます。何度も筆を執っては置いての繰り返しで、支えてくれる友人からも「もっとどっしりと構えなさい」と手紙で励まされるのですが、思うようにはいきません。こうして手紙を綴ることで、一種の安心感や達成感を得ることができる気がするので、とにかく今できることは後回しにせず、今のうちに行動をしようと考えています。

まだまだ不安ばかりですが、安定した社会生活を取り戻すためには、薬にまみれた過去の自分を断ち切ることが何よりも重要と肝に銘じ、新しい自分を一から育て上げようと頑張っています。牛歩のようにゆっくりではありますが、確実に歩みを進めますので、どうかご指導の程を宜しくお願い申し上げます。

（福島県　Y・R）

潮騒で回復し生きがいを見つけて、新しい人生を目指したい

私は今回で6度目の服役です。毎回毎回やめようと出所するのですが、長い月日のうちにどうしても覚醒剤に手を出してしまいます。これは依存という重要な問題が根底にあることに気づきました。私も自分の生き方を見直すきっかけが欲しいのです。一日一日が充実して積み重ねられることが大変に重要だと思うようになりました。ぜひ先生の運営されている潮騒JTCで自分が立ち直るために、（覚醒剤と無縁な）ひたすら充実した日々を積み重ねたいと念願しています。先生の下でご指導を仰ぎたいと切にお願いしたいと、こうして手紙を書いています。

私は覚醒剤による6度の失敗で、様々なものを失い、自分自身まで失いかけました。でも、なんとか人生にもう一度希望を持って「自分はなぜ生きているのか」「自分はこれからの人生で何をなすべきなのか」を真剣に考えています。そうした問題意識をより明確にするためにも薬物依存からの回復が、何にもまして重要なことなのです。今後、これを自分自身の価値基準として生きていきたいのです。ぜひ先生、私に力を貸してください。希望を与えてください。今の気持ちを分かって頂けるのは先生しかいないと思っています。

私が思うのは、自分が生きていることに価値や意味がある、自分は掛け替えのない大事な存在なんだ、自分が（社会から）必要とされているという感じがある—と考えられるならば、覚醒剤から自分が守られるということです。そうした生き方ができるなら、自分が自らの人生に生きがいを感じるだろうし、自分が一人の社会人として生きていることに責任感が生まれ、人生において果たすべき役割を自覚するようになると考えます。生きがいは生活が充実していなければ生まれません。

できるなら（出所後には）潮騒JTCにおいて、日々の小さな喜び、悲しみ、怒り、嘆き、そして勇気、希望…、そうした人間としての諸感情を包み込みながら、心豊かな自分をつくり上げていきたいと願います。依存症に囚われた私にとっては、そうした一日一日の地道な歩みの積み重ねが何よりも重要であり、やがては依存から回復して自分自身の新たな生き方を目指したいのです。そのためには何が何でも先生のご理解が必要としていますので、何とぞ宜しくお願い致します。

（神奈川県　O・H）

※読みやすくするために一部手を入れました。ご了承ください。

しおさい俳壇

5月のお題　**初夏**

選者 **桐本石見**

わが俳句人生の歩み・No.7

センター長　栗原 豊

鹿島ダルクでの施設生活がまだそれほど忙しくなかったこともあり、私は神栖俳句会で毎月開かれる句会に欠かさず参加した。私にとっては地域の人たちと触れ合う貴重な機会であり、投句で腕を磨くことにも大いに役立った。その上、自分の作品が神栖市の広報紙に秀句や佳作として毎回載るのが楽しみで、作品の選評を受けることが着実に技量アップにつながった。また、他の作品について背景や動機が分かり、深い理解につながった。選評によって句の姿が浮き出るように私には思えた。

とにかく発表の場があることは、私にとって俳句作りの動機付けにつながった。作品を作る回数が増え、何気ない日常や風景に対する観察力が研ぎ澄まされていくように感じられた。神栖俳句会に所属したことで、自分の名前が入った作品が毎月、市の広報紙に載って市内全世帯に配られるのだから、達成感が大きかった。決して大袈裟ではなく、自分の存在確認の手段にもなった。ダルクミーティングは批評や批判を加えない「言い放し」「聞き放し」が原則で、言葉は回収されず、その場で消えてしまう。でも、俳句という表現世界だと単なるコミュニケーションではなく文学表現として自分を対象化したり、深く内省したりすることにつながる。句会で多角的な視線にさらされ、選評によって新しい自分を発見することも多かった。

そんなふうに人間的な感情や感性を高めることで、依存症の回復に副次的な効果をもたらす俳句の世界だが、間もなく私は諸事情から鹿島ダルクからの独立を決意し、志を同じくする仲間たちと現在の鹿嶋市内に居を移すことになった。慣れない土地での施設づくりの準備や、収入を得るためのアルバイトなどで生活に余裕がなくなり、おまけに仲間のスリップの常態化などで対応に追われた。とても神栖時代のようにゆとりを持てなくなり、俳句への関心が弱まっていた。以前のように神栖俳句会にも足を運ぶことができなくなっていたのだった。

（次号につづく）

筑波嶺の雲に雲湧く夏来たり

あべ

特選句

筑波山は古くから名山と知られ風土記にも歌会の山として記されているし、今でも四季を通じて多くの人が訪ねる、その嶺に雲が湧く夏が来た、夏の雲は入道雲とも云う、大景の句で広い平野も想う。また、「田植え唄いまも懐かし里訛り」も佳句。

初夏の風のウェディングドレスかな

シマ

特選句

初夏の日の結婚式か、式の後で庭園などで記念写真を撮る。その間も白のドレスが風になびく、花嫁の笑顔と共に清々しい景で、初夏の季語が女性を太陽に例えるに相応しい句です。

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

今月の秀逸句

晴天や藤の足利日本一

オノ

秀逸句

藤の日本一の定義は難しいが、足利フラワーパークの藤は樹齢百四十年、花の広さは六百畳に及ぶ、又藤の花のトンネルも八百米など日本一に相応しい。長く垂れた花房が風に揺れるのも美しい句です。

初夏の早や水遊び子供達

ミヤ

秀逸句

子供は何故か水遊びが好きで夏でなくても雨の後の水溜りなどがあると遊ぶ、思い出せば自分も幼い時は家の前の小川で遊んだのが懐かしい句です。

北浦の穀雨となりし昨日今日

ジュン

秀逸句

穀雨は二十四節季の一つで陽暦四月二十日頃、暖かい雨に物の芽や種の芽が出て百穀を生ずる意。北浦の田も耕しが始まり早い所は田植えも始まる、農耕のみならず命の水を思う句です。

夕涼み浴衣姿の乙女子ら

ポチ

秀逸句

一時期浴衣姿は少なくなったが、最近では外人観光客や東京などでは若い女の子に人気で良く見かける。夕涼みの浴衣姿は風情と共に恋心を思う句です。

初夏の初めて買ひしナイキ靴

ユタカ

秀逸句

ナイキと云えばスポーツシューズを思いますが、若い頃はスポーツ、年配なら散歩用などで、初夏の訪れに靴を買い何処かへ出掛ける思いに心弾む句です。

佳作

青々 と鹿島の杜の初夏の風　あやめ

青波に人を待ちつつ初夏の海　レイコ

夏が来て鳥の鳴き声響きけり　イルカ

利根の田も鹿島の杜も衣替え　コバ

半袖かカーディガンかと迷ふ今朝　かっちゃん

初夏の夜恋の思いも懐かしき　チャー

潮騒の香に立つ下津夏初め　カツミ

北浦のそよ風そそぐ初夏便り　キコ

初夏迎え賑わいみせる平井浜　ヒロ

受刑者の句

故里の小さき駅舎雲の峰

章三郎

昔は貨物駅を併合していたので駅の構内も広かったが今は小さく無人駅が多い、雲の峰は入道雲とも云いその雲を仰ぎ見ながら故郷を懐かしむ、作者の故郷は何処だろうか切々とした句です。

監獄は孤島の如し薄暑かな

章三郎

監獄の生活はテレビや本などでしか知らないが、人は囚われや拘束されるのは基本的に嫌な事で孤島の思いになる。薄暑は初夏のことでもあり、冬より良い気候だが、それでも獄中は孤独で哀れの句と云えます。「獄中は孤島の如し鰯雲」などに詠めば感慨深い句になると思います。

どっこい 私も生きてます ～我が回復記～　「アディクトのトムです」 No.4

現場から事務方に移り、今の仕事につながる下地を経験

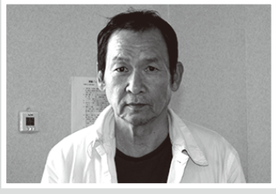
引き続き回復してないトムの回復記です。先日、施設内でトラブルがあり、自分も巻き込まれてしまいました。これを通して改めて自分自身の至らなさを痛感するとともに、利己的に生きてきた過去の残骸がむくむくと頭をもたげてきて今、自分を苦しめています。お袋の財布から飲み代欲しさにカネを頂戴してしまう、過去の自分はまだ変わっていません。今回の件でまたもや自分の病気の深さに気づき、「なぜ自分はここにいるのか」をハイヤーパワーに頭をこずかれながら教えてもらっています。どうやら棚卸しをする時期なのかもしれませんね。とにかく自分は回復に時間がかかっています。^.^、生かされてることに感謝しながらも…です。

それはさておき、勤め先の配膳会で自分は1996年で仕事の内容に一区切りを迎えます。ウエーターとして働く現場から事務方となり、配属は総務になりました。ここから今の仕事にも繋がる仕事内容へとシフトチェンジしていきます。石神井公園の近くのマンションが事務所でした。とはいえ会社は社長（女性）、その甥っ子（同い年）と自分の3人でした。たまにパートのおばちゃんがいました。現場のメンバー割とその紹介、得意先への請求書作り、そして給与計算、面接、現場経験を生かして簡単なトレーニング…と、要は小世帯なので「何でも屋」でした。物事を計画的に相談して進めることが苦手な自分は、もがきながらもパソコンを使う仕事を覚えていきます。今曲がりなりにもワードとエクセルが使えるのは、このときの経験が下地になっています。でも、仕事はオーバーワークが当たり前、携帯電話を持って常に緊張状態でした。

それにしてもこの職場では、徹底的に身の回りのことをしつけられました。靴はそろえておくとかです。そして女性社長に口を酸っぱくして言われ続けたのが「あんたは起承転結の結がないのよ」でした。潮騒JTCでも先日、センター長から「最後の確認を怠るな！」と言われてしまって、どうやらこの辺も変わってないです。なんだか人生甘く考えていて、本当の生きる喜びって知らないですね。でも人に恵まれていて、なんとか今まで本当に生かされているのかもしれません。当たり前のことが実は 当たり前でないということは、実はそれがなくなって初めて気づく大馬鹿者です。感謝の念がない— これこそ自分の病気の根源かもしれません。この時に自分の病気の深さに気づいていれば、もしかして家庭が持てたかも… なんて夢想します。相手は誰だったでしょうか…。もう遠い記憶の彼方の話ですが…。（次号に続く）

5月のバースデイ

ムラ



7ヶ月過ぎてこれからもぶれない
自分で頑張ります。

一休

残りの人生頑張ります。

シュン

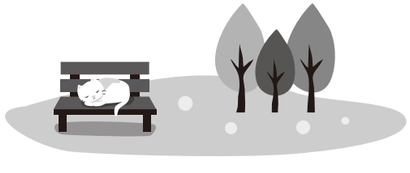
潮騒の環境のもと、
薬を使わないと云う
意志を選んだ、
ただそれだけで
クリーン4ヶ月と云う
奇跡を迎えることが
出来ました。
感謝しています。

ハリー

63歳からの人生始めての
回復に向けて頑張る。

チョー吉

我人生60年
残りの人生悔いなく生きる。



1998年10月9日第三郵便物認可（毎月3回8の日発行）2014年5月13日発行　SSKU増刊通巻、第4810号

5月の行事予定

24日	NPO法人･潮騒JTC平成26年度総会
24日	北関東薬物関連問題研究会
25日	家族会
26日	誕生会
29日	R・Dプログラム
29日	映画会
31日	ピア岐阜10周年フォーラム

6月の行事予定

1日	鹿島神宮大鳥居竣工祭
5日	R・Dプログラム
5日	俳句会
7日	聖明病院フォーラム
7・8日	メロン祭（エイサー演舞）
8・21日	秋元病院メッセージ
14・15日	木津川ダルク開設記念フォーラム
16日	新宿とまりぎアルコール問題相談業務
21日	北海道ダルクフォーラム
22日	家族会
27日	川崎ダルク10周年フォーラム

献金を頂いた方（5月15日現在）

・下里 三千代 様　・高橋 ふく子 様
・渡辺 洋子 様　・内堀 高良 様

献品を頂いた方（5月15日現在）

・高橋 ふく子 様　・中村 照代 様　・堀内 誠 様
・栗原 稔 様

その他匿名の皆様からも献品･献金をいただきました。ありがとうございました。

今月も献金･献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。
今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記

昨年夏頃から「シャブ＆アスカ」などと週刊誌で盛んに書きたてられたミュージシャン、ASKA容疑者が覚醒剤取締法違反容疑で逮捕された事件で、またもやメディア報道が過熱している。人気商売とはつらいものだという思いを禁じえない。のりピー（酒井法子）の時もそうだったが、有名芸能人による薬物絡みの事件はニュース番組だけでなくワイドショーにとって格好のネタになる。でも、社会正義を盾にこれでもかと襲い掛かる報道姿勢にはうんざりだ。ASKA事件を語るには一言で足りる。「薬物は人を選ばない。聖人君子であろうと極悪人であろうと、薬物と出合ったことが不幸なのだ」（日本ダルクの近藤恒夫さん）と。もはや立派？な薬物依存症のASKA容疑者がもうすこし早い段階でダルクにつながっていれば、と悔しい気がする。法治国家において刑事責任が問われるのは当然だとしても、ダルクのスタンスからは単純自己使用には刑事罰を与える以上に福祉医療のケアを優先させるべき、となる。米国では有名人が薬物でつまづいてもリハビリ施設で回復し社会復帰すれば、その努力を称え温かく迎え入れるという。世知辛いことに日本では、社会防衛を盾に落伍者のレッテルを張って異端者扱いし、後の更正は自己責任だとして治療せずに地域に放り出す。失敗を許さない社会風潮にあって、人気商売の芸能人であればなおさら“落伍者たち”が集うダルクや潮騒につながることは難しい。芸能人向けのダルクなどは夢のまた夢なのか。（市）

潮騒通信 どっこい生きてます！ 2014年5月号

Contents

P2 居場所がないなら、自力でつくるしかない
P3 ほぼ満開の八重桜を楽しむ
P4 リレーや綱引きで子供にタイムスリップ「初夏キャンプ＆大運動会」
P6 交流会 with 横浜ダルク
P7 鹿島灘太鼓
P8 NPO法人潮騒JTCの平成26年度総会開く 話題のRD学習会がスタート
P9 青パパイヤの定植作業が終わり順調に生育
P10 受刑者からの手紙
P12 しおさい俳壇　5月「初夏」
P14 どっこい私も生きてます！ ～我が回復記～

■ 編集･発行：
特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
TEL:0299-77-9099　FAX:0299-77-9091
潮騒リカバリーホーム（中施設）
〒314-8799 鹿島郵便局 私書箱56号
〒311-2213 茨城県鹿嶋市中2773-16
TEL:0299-69-9099　FAX:0299-69-9098
潮騒スリークオーターハウス鉾田
〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木1113-39
E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ http://shiosaidarc.com/

1998年10月9日第三郵便物認可（毎月３回８の日発行）2014年５月13日発行　SSKU 増刊通巻、第4810 号

発行所　〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会　**定価 100 円**（会費に含む）

1998 年 10 月 9 日第三郵便物認可（毎月 3 回 8 の日発行）2014 年 5 月 13 日発行　SSKU 増刊通巻、第 4810 号